

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム やちよ ひまわりユニット	評価実施年月日	平成19年8月1日～8月10日
評価実施構成員氏名	奥山圭子・小林絵美・林 香織・加藤多恵子・原 友美・竹下和宏・佐藤龍子・堀籠美保子・大森幸子・菊地由美子		
記録者氏名	佐藤 司	記録年月日	平成19年9月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>学校、地域の行事等の参加など自由な外出、かかわりを多くすることにより「生きる喜びを与えてくれたあなたにありがとう」の理念のもとに一人ひとりの生活リズムを大切に考えねその人らしく生きていくことを少しだけ手助けをして生活して頂いている。</p>	<p>○</p> <p>ホームの中だけで生活するのではなく地域の一人として生活できるよう更に支援を広げていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>採用時には必ず理念を伝え理解してもらっている。また休憩室には理念を張り出し日々確認できるようにしている。ユニット会議においては理念のもと、より良いケアが出来るよう話し合いを持って意見の統一を図っている。</p>	<p>日々の接し方、声かけ、記録等において理念を反映させるよう努めている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には見学、入所の際に理念を説明させていただいている又、地域住民の方にもホーム見学、認知症サポーター講習に講師として出席し認知症への理解を深めていただけるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族、地域の方に参加して頂く運営推進会議で理念を理解して頂くよう取り組んでいる。ホームへの訪問時には日常の様子と対応を伝えホームへの理解につなげている</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時、地域の方と会った際にはこちらから声をかけ自然に親しくなる関係を作っている。食材の買出しに同行してもらい地域の方たちと触れ合う機会を作っている。</p>	<p>○</p> <p>普段の生活の中で近隣の人達への声かけや行き来のきっかけづくり、隣近所の人達が立ち寄ったり、遊びに来たり、お裾分けしたりする間柄をつくっていききたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>保育所、小学校との交流を定期的に持ち行事に参加したりホームへの訪問をしてもらったりと交流をしている。ボランティアや実習生を受け入れ開かれたホームを目指している。</p>	<p>○</p> <p>地域の小学校、保育所との交流はあるが、現在、町内会に所属していない為町内の活動に参加する機会が無い。今後、町内会と話し合いながらホームの行事への参加を呼び掛けていきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>相談を受けたり、見学に来て頂いたり地域の町内会の老人クラブで講演したりと出来る中で取り組んでいる。</p>	<p>今後はさらに気軽に相談に来ていただいたり認知症への理解を深めてもらえるよう機会を見つけて取り組んでいきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価を全員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はユニット会議にて報告し、意見交換をして改善につなげるため努力をしている</p>	<p>さらに良いホーム作りの為評価の意義を理解し取組んでいる。課題については理念に照らし合わせ改善すべき点についてはすみやかに改善している。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>入居状況や行事、事故など報告し話し合いを持っている。参加のご家族も増え質問については真摯に答え、頂いた意見をサービス向上につなげている。</p>	<p>今後さらに良いホームを作っていくために参加されるご家族から忌憚の無いご意見をいただけるよう信頼関係を作っていく。事業所先導ではなく地域、家族と一緒に作っていく、という方向に努める。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市からの依頼には積極的に協力し相互理解を深めサービスの向上に努めている。</p>	<p>今後も行政と連携する事で認知症の方々の利益につなげていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度については理解している職員もいるが全員が理解しているわけではないので今後勉強会や研修会への参加をしていきたい</p>	<p>○ 今後学習機会や、説明などに取り組んでいく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者会議の中で定期的に身体拘束廃止委員会を持ち虐待への意識を高めスタッフとはユニット会議の中で話し合い1人1人の意識の向上に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止法を学び職員間で常に確認している。又、言葉の虐待も含めスタッフ間で常に確認している</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際には必ず契約書、重要事項説明書を渡し十分に説明し不安、疑問点があればそれに答え、理解、納得の上で契約している。</p>	<p>契約時には利用者・家族等の聞きたいことを利用者の立場に立ち、将来の事も含めて疑問等を引き出し、それらに対して十分な説明をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13</p> <p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、入居者さん本位の運営を心がけている。その時々入居者さんの不安、意見等は各ユニット毎に都度話し合いを行い、特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。</p>		<p>ひとりの不満を受け止めることが事柄によっては他の方々の不満に繋がらないか見極めながら対応していく。</p>
<p>14</p> <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>日常の暮らしぶりについては来ホームの折に伝えている。受診の結果についてはその都度お知らせしている。また異常時にはすぐに伝えている。預かり金については月末に領収書とともに明細を知らせている。月末には代表者、管理者、スタッフが一ヶ月の様子を知らせる手紙を各家族に送っている。</p>		<p>ホームページを作り日常生活を具体的に知っていただけるようにしている。また、普段の生活ぶりを写真に残しホールに張り出している。</p>
<p>15</p> <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族には手紙や訪問時、常に問かけ何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。出された意見、要望等はユニットで話し合い、反映させている。又、ご意見箱を設置している。</p>		<p>ご意見、苦情があればすみやかに対応しさらに良いホームになる為に課題検討している。</p>
<p>16</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ユニット会議や朝、夕の申し送り、日常の業務の中で対話する時間を設けスタッフからの提案を受け入れ反映させている。また、日ごろからコミュニケーションを図れるよう心がけ、問い掛けたり、聞き出ししたりしている。</p>		<p>職員の意見を反映させ、質の向上につなげる取り組みをしている。</p>
<p>17</p> <p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>スタッフの勤務はゆったりとしたものとなっている。散歩や会話は1対1が可能な勤務状況となっている。柔軟な勤務体制となっており緊急時にも十分な対応が可能である。</p>		<p>本人のニーズに合わせや生活時間に合わせた体制が取れる人員の確保をしている</p>
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>信頼関係を作るために馴染みの関係を大切に考えているが異動や離職がある際にはダメージを最小限に抑える努力をしている。両ユニットの交流をしユニットの異なるスタッフとも馴染みの関係になるよう配慮している。</p>		<p>入居者さんにとってなじみの職員が継続的に支える体制となっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会、講演会に参加する機会を確保し、知識を高められるよう考えている。他グループホームとの職員交流や料理講習、救急法講習など実施し育成している。ホーム内では1年間の育成目標を作成し3ヶ月毎の目標を設定している。スタッフ自身で1年間の目標を作成し3ヶ月毎に管理者と達成度を確認している。	日常的に学ぶ事を推進し、研修・会議等に参加の機会がある。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会の中で交換研修やスタッフ研修を儲けて質の向上につなげている。運営推進会議へのスタッフの参加、グループホーム広域連絡会による研修会への参加を積極的に勧めている。	・管理者に限らず職員が地域の同業者と交流できるは、希望者を募り、参加する機会を設けている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常や面談時に悩みや疑問を聴き把握するように努めている。ストレスの要因に気を配り職員同士の人間関係を把握したりしている	年に数回、管理者も交えた親睦会を実施している。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	代表者も毎日現場に来ており、入居者さんと過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握に努めている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で生かせる環境づくりに努めている。	職員の健康状態はケアのあり方に大きな影響を与えかねないので疲労感をためないようにしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学や入居の相談に来られた際にご本人の状況をよく聞き家族の悩みや思っている事の相談にのっている。入居時にご本人、家族と会い話しを聞く機会を設けている。生活歴や趣味、日常生活リズムなど想いをよく聴きスタッフに周知し生活に反映させている。	本人の思いや不安を受け入れ安心して頂く事からはじめる。何を求め何が大切か恐れていることは何か苦しんでいること、困っていることの把握することにより信頼関係を作っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。	予約されている家族に対して1ヶ月に1度入居状況をお知らせするとともに入居希望者の状況、及び家族の悩みも聴き相談等を受けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人にとって一番良い事、必要な事は何か、を常に念頭におき対応している。在宅の相談者に対してはデイサービス、ショートステイ、訪問介護の利用などの助言や、包括支援センター、市の福祉課などへの相談を勧めている。		困っていることや不安な事にたいして、可能な限り直ぐに実行し出来ないことでも安易に逃げず、対策を考えている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームを見学して頂く（本人・家族）スタッフが自宅に出向き話を聴いたりして安心した生活を見極め安定した利用に移行、すぐに利用になった場合家族や関係者に来てもらい安心感を持ってもらう		本人に納得の上の利用により心理的な不安を抱えることが無い様に十分に配慮している
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来ることはして頂く事を基本とし出来ないところを支える対応を基本としている。ご本人の想いを受け止めることを第一に考えている。経験豊かなお年寄りから教えていただく事を大切にしている。		してあげる、の姿勢ではなく共に生活する、と考えている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人が安心し安定した生活が送れるよう、またご家族に安心していただける事を基本に考えている。家族の想いを聴き一緒に本人を支えていく関係である。		御家族に認知症への理解を深めていただけるよう話し合いを持っている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族本人の状況を見極めながら外出や外泊で家族と一緒に過ごす時間を作ったり行事への参加に家族を誘ったりしている、本人の日頃の状況を細かく報告したり相談したり、よりよい関係の継続に努めている		ホームでの暮らしに関われるように機会を作っている。家族と本人の時間を大切にと考えている、家族が疎遠になっている場合、暮らし振りを報告している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の行きたい場所に同行し馴染みの関係が途切れないよう支援している。入居前のかかりつけ医院への受診継続、美容院の利用などしている。訪問面会はいつでも受け入れ制限はしていない。	○	入所前の馴染みの場所を把握し、再度その場へいけるような取り組みをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さん同士の関係を把握しており、催し物、レク、お茶の時間等を利用スタッフも中に入り関わりが深まるよう支援している。		集団の中での利用者に配慮し、入居者さんが孤立しないような支援、助けあい、支え会いを引き出し、利用者同士の関係や個性を上手く生かす配慮をしている
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院の為やむなく退去された方のお見舞いに行くなど関係を切らない対応をしている。又家族にも近況を聞くなどの対応をしている。		やむをえず退所される場合移転先の紹介などの支援をした
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中かで言葉や表情の中から把握に努めたり真意を推し量ったりしている、それとなく確認したり意思疎通が困難な方は家族や関係者から情報を得ている本人にとって何が最良なのか家族を交えて話し合っている		どのように暮らしたいか理解する為にアプローチをし、思いを探っている、利用者の言葉に少しずつ思いを日々の行動や表情から汲み取っている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人及び家族から聞き取りをし出来る限りの情報を集めスタッフとともに共有している。入居前のサービス利用についても、可能である場合はサービス提供者から情報を得ている。		ご家族から小さな事柄でも情報を伝えてもらえた時には、記録に残すようにし共通理解を心がけている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活日誌、連絡ノート、朝、夕の申し送り、モニタリング、ユニット会議等で本人の1日の過ごし方、生活リズム、心身状態を把握し持っている力、出来ない事の把握をしている。持っている力を発揮して頂く場の設定、出来ない事への支援につなげている。		個々の1日の生活リズムを把握している(食事・睡眠・生活習慣・体調の変化)家族や関係者による出来ないという情報にとらわれず出来ること・分かる力を本人の生活や全体像から把握している
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人とは、日々の関わりの中で思いを理解し、ご家族とは来訪時に希望や思いを聞き取りに努め、ユニット会議、ケア会議に反映させるようにしている。		個々に沿った具体的な計画を作成している。職員の視点ではなく利用者主体の暮らしを反映した介護計画になっている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p> <p>職員が情報を確認し状態が変化した場合、終了する前であっても検討・見直しをしている介護計画の遂行状況・効果などを評価し、職員が記録する・利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている</p>		ケアプランと照らし合わせて、現時点の利用者や家族の状況・ニーズ、サービス提供状況とずれていないようにしている。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p> <p>生活日誌を個々に記入し情報の共有をしている。いつでも確認できるようになっており、始業前の確認は義務付けている。また朝、夕の全体の申し送り、その後のユニットの申し送り、事例レポートの活用などでケアの実践、計画の見直しをしている。</p>		特に注目してほしい事柄などは特記事項に記録し、職員の目に入りやすくしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p> <p>本人家族の状況におおじて通院送迎等必要な支援をしている利用者の柔軟支援はもとより家族に対しても相談の窓口を設置している</p>		利用者さん、家族が安心して暮らして続けるためには必要な支援が出来るよう柔軟な対応をしている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p> <p>定期的、また不定期のボランティアの訪問がある。市民会館、文化センターなどでの催し物の鑑賞をしたり近隣の小学校、保育所との定期的な交流があり協力しながら支援している。</p>		今後も、積極的な連携を組んでいく
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p> <p>広報誌を活用し入居者さんの興味に応じて外出の機会を持っている。ボランティアの定期的訪問や保育所、小学校との交流もある。要望に応じて出張床屋の利用をしている。</p>		今後も必要に応じて他のサービスを利用するための支援を検討していく。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p> <p>運営推進会議への出席や認知症サポーター講座の講演、入居希望などを通して共働している。</p>		地域のサービス事業者・関係団体・民生委員によって構成されている人的ネットワーク組織の構築に向けて協働している

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は本人・家族の希望に応じて基本的には職員が代行し結果を家族に報告している利用契約時に趣旨説明し、同意を得ているホームでの協力医の他、訪問診療に来てもらったり複数の医療機関と関係を密にしている		通院方法・情報の伝達方法について家族等と話し合い合意されている
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域に認知症専門医はいないが、協力病院に精神科があり必要に応じて診断等を受けている。		認知症に関する診断や治療の対処方法について利用者個々にできている。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を配置し、日常の健康管理をしている。週一回のバイタルチェックや体調に合わせたチェックを職員に対し指導している。不在の時は介護職員の記録を元に確実な連携を取っている		利用者の普段の状態や疾病を理解している。24時間の対応、急な発熱・救急に行くべきか・朝まで様子を見るか判断・相談をし連携をとっている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された際にはホームでの生活、既往症、服薬に関しての詳しい情報を提供し医療と連携している。早期退院に向けてホームの受け入れ態勢など医療機関に伝えている。		病院に対してなるべく混乱が少ない様に本人の普段の状況や特徴等を伝えている。家族・医療機関と通院計画の具体的な立案を受け入れ体制を整えている
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族に対してホームとして出来る事を指針として提示し同意を得ている。同意を得た指針についてはスタッフと共有している。	○	方針を定めたばかりで今後はスタッフ全員が対応できるように、スタッフ教育が必要
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の指針を作成し本人の想いを最重要としながら家族と話し合いの上で方向を決め、かかりつけ医院と連携の中で最良の方法をとっていく。今後の対応に備えスタッフの資質向上など準備を行っている。	○	現時点では、今のスタッフの力量、知識で対応できるような指針だが、今後、もっとスタッフの知識、技術が向上できるな機会を持つことが必要

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えの際には当グループホームでの生活の経過を情報提供し新生活でのダメージが最小で済む様努めている。</p>		<p>今後も発生した場合は都度実施していく。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>勉強会やミーティングの折りに、職員の意識向上を図るとともに、入居者さんの誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。</p>		<p>他のご家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する事を話さないことを徹底しています。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定を大切にしている。表情を良く見て言葉に出ない思いを受け止める支援を目指している。</p>		<p>スタッフ主導ではなく御本人の想いを優先し対応していく姿勢を大切にしている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れは作っているが、時間は決めていない。個々の体調に配慮しながらその時の本人の気持ちを大切にしている（個別性の支援）</p>		<p>ホームのスケジュールに利用者の生活が合わされた支援ではなく入居者さんのペースに合わせた支援を心がけている。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝の着替えは基本的には本人が決めている職員は支援が必要の時のみ支援している自己決定が出来ない茎は一緒に考えているここの生活習慣に合わせている。行事等には日頃から化粧を楽しんで頂いている</p>		<p>身だしなみをご本人の自己決定の一つとしてご本人の好みで整えられるよう支援している。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事が楽しみになる様に下ごしらえを職員と一緒にしている。出来る限り好みの内容に沿った食事内容にしている。</p>		<p>誕生会やイベント時には行事食とし楽しんでいただく対応をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好、食べられない食材等を理解し好みに合った食事を提供している。また体調不良時にはお粥、刻み食など摂取しやすい形状で提供している。		入居さんが自宅と同様に、馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れるように努めている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣の把握を努め、トイレ誘導する事でトイレでの排泄を促している。排泄チェック表を作成し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導する事により、トイレで排泄出来るよう支援している。		ご本人の苦痛になるような、無理な誘導はしていない。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。		入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣に合った対応をしている。時間に縛られた対応をしておらず起きたいときに起きて頂き寝たいときに寝て頂く。その方の生活のリズムを大切に自由な暮らしをして頂いている。		日中の個別の疲れ具合（人との交流、家事、外出、入浴、その日の出来事等）に合わせて、個別に休憩を取り入れてもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で力を発揮してもらえるような仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにし、入居さんの力を発揮出来る様な場面を作っている外出や地域の行事参加等の希望に合わせて支援している		やらされているという感じにならないよう声かけ等に注意している。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持の可能な方には家族と話し合いの上で小額持って頂いている。日常、所持されていない方については買い物に行かれる際には預かり金を渡し御自分で支払って頂くこともある。	○	財布からお金を出すことで社会性の維持につながるようしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の気分や希望に合わせて買い物、散歩、ドライブへ日常的に出かけている。外食や野外食もして季節感を肌で感じてもらっている。畑へ行き野菜の間引きをしたり、花々を摘んだりと戸外へ日常的に出ている		歩行困難なケースでも車や車いす等を使って戸外へ出ることを行っている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	果物狩りや温泉へ日帰りで出かけたり花見に行くなど機会を作っている。スタッフとの外食をしたり自宅へ帰りたいなどの想いがあれば出来る限り想いに沿うようにしている。		一人ひとりの思いや願いを叶えられるよう、入居者さん、家族等と相談し協力を得ながら実現に向けた取り組みを心掛けている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや職員からの声かけを行うとともに会話が他の入居者さんに聞こえないよう電話の設置場所を工夫している。年賀状や手紙を出すための支援をしている。		家族、友人、知人からの手紙や電話を歓迎しています。内容が漏れないよう気を配っています。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族も気軽に訪れるような来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などは定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるよう配慮している。	○	居室だけではなく、くつろげる訪問者スペースも今後設けていく事も考えている
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングや日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか等を話合っている。		全職員は身体拘束によって利用者が受ける弊害について理解し、拘束のないケアをすることに努めている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	自由に外出して頂くことを基本としている為、生活時間帯に玄関には施錠はしていない（チャイムは鳴る） スタッフは鍵を掛けることの弊害を理解している。		外出する気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーができています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はホールには必ずスタッフがおり入居者の所在の確認や、体調の把握に努めている。夜間は夜勤者が時間を決めて見守りをし入居者の様子を把握すると共に、起きた際にはすぐに対応し安全に過ごしていただくよう配慮している。		入居者さんの居場所が分かりにくいところでの作業時には他の職員に声をかけするなど工夫している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険かどうかの判断の中で危険と思われるものに関しては置き場所を安全なところに移す対応をしている。一人ひとりによって注意する物が違うので状態に応じて対応している。		十分な検討をしないまま、包丁、洗剤等全ての物品を一律に片づけたら、鍵をかけてしまうなど、管理が過剰にはなっていない。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々変化する一人ひとりの身体、精神状態を知ることで、起こる可能性のある事故の予測をし防止につなげている。事故が起きたときは、何故起きたのか、防ぐにはどうしたらいいかを事例レポート、インシデント、アクシデントレポートで検証し同じ事故を起こさぬ様取組んでいる。		現在の入居者さんのADLや体調により予想される事故を職員で検討している転倒、窒息、誤薬、行方不明の事故防止の方法を共有徹底している報告書記録をきちんと整理、保存している
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し急変時や事故発生時に備えている。救急救命の講習を受け応急手当を学んでいる。夜間は連絡体制を作りすみやかな対応が取れるようにしている。		夜間等、人手が少ない時の応急手当から、その後の連絡、対応方法についても想定し周知徹底を図っている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年1回入居者さんとともに消防職員立会いの下避難訓練等を行っている。	○	今後地域住民の参加 協力を得ながらの訓練等も視野に入れた訓練を考えていくことを考えている 消火器や避難経路の確保等の定期点検を行っている新職員を雇った際は自主訓練をしている
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	安全を考えながら、その方のしたい事をして頂く、止めない、を第一に考え対応している。その為に起こり得るリスクに関してはあらかじめ家族との話し合いを持ち理解していただいている。		リスクについては個別的に定期的に見直しをしている

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	いつもと違う様子があれば管理者に報告しバイタル測定し体調把握をしている。早期発見を第一とし小さな変化を見逃さないようにしている。異変があれば家族了解の下、受診対応をしている。生活日誌への記載、申し送りでの対応指示により情報共有に努めている。		常に顔色や様子に注意し、兆候を見落とさないよう注意する事を全職員に促している。変化やサイン、対応について報告するとともに、间歇に記録し医療等につなげている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを職員が確認しやすい場所に保管し、内容を把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡し、キッチンと服薬出来るかの確認をしている。		全職員が薬の内容（目的、用法、用量、副作用）を把握できるようわかりやすい薬剤の早見シートを用意し、変更になった場合は速やかにシートを更新している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れるように努めている。散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるよう取り組んでいる。排便チェック表を作成しており、排便状況を把握できるようにしている。		下剤や浣腸等をしている場合は、個々の状態に合わせた使用量、頻度となっており、薬にむやみに頼らない工夫をしている
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後のうがいの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行ったりしている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		口腔ケアの必要性を職員は把握している。。歯や義歯ばかりではなく、舌磨きも促している。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録している個々の体調や疾病に合わせた食事、水分の摂取量を医師と相談し体調に合わせた支援をしている		会議や回覧で、水分摂取についての学習の機会を設けた。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しスタッフへ周知し予防に努めている。手洗い、嗽など日頃からできることをしている。手洗いはペーパータオルの使用、スタッフは個人で手拭のタオルを使用し感染症予防している。夜勤帯の中で手すり、ソファなど手の触れる所の消毒をしている。		定期的な勉強会が行われ一度作った取り決めをそのままにしておらず、感染症に対する予防や対策を常に新しい知識、技術に更新されている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・布巾等は毎晩漂白している。冷蔵庫の点検・清掃・食材の鮮度の確認と調理器具・水周りの清潔を保っている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の点検を頻繁にしている		台所、調理器具の清潔や衛生管理方法について、取り決めがあり職員は実行している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にベンチやプランターなどを置いたり明るい雰囲気になるように花を生けたりして季節感を演出している。	○ 玄関やスロープに沿って花を置き明るい雰囲気となっているが道路から坂を登ったところに建物があるため地域の方々が気軽に立ち寄るのは難しいところがある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度、湿度を測定し窓を開けて換気するなど心地よい空間作りをしている。ホール窓から畑や木、山など自然が見え季節感を感じられている。食事も山菜など季節の食材を使用し、行事食などで季節感を味わっていただいている。	壁面に利用者が作った物を飾ったり季節ごとの作品もかざっている利用者の書いた作品もフロアーに飾っている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ホールや廊下に、イスや小さなテーブル等を置き絵画や花などで装飾した居心地のよい空間を作っている。	○ 椅子やテーブルを置き一人で過ごせる場所も今後考えていく
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具など自由に置いていただき在宅時に近い生活をして頂いている。ご本人や家族の写真を飾ったり思い出の品を置くなど居心地良い生活をして頂くよう心がけている。	使い慣れた目覚まし時計や携帯ラジオ等、小さな物でも持ってきてもらい安心して過ごせるような配慮をしています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温、換気に配慮しており入居者の状況、体調に応じてこまめに温度調節している。0時と9時に室温、湿度を測定し適切な温度、湿度を保てるよう対応している。	温度や湿度の調節は、職員の感覚だけでなく入居者さん一人ひとりの状態に配慮しておこなっています。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差の無いフロアーでつまずいたりしない配慮をしている。手すりは最低限の設置とし入居者の身体機能の低下を防いでいる。高さを変えられる洗面台を設置し車椅子対応をしている。エレベーターも有り歩行者、車椅子、階段の昇り降りの難しい方に利用して頂き安全に配慮している。	身体機能の変化に考慮し、入居者さんの現在の状態に応じて生活環境の改善に取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>「出来る事はして頂く、出来ないところを手助けする。」を基本とし混乱や失敗を防ぎつつ生活の中で持っている力を生かせる配慮をしている。ホームのなかでの役割を大切に生きる力を引き出している。</p>		<p>混乱が起きる前の生活状況と比較し混乱が生じる原因が何なのかをユニットスタッフで考え、対応策を考えている。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の裏に花を植えたり菜園を作り利用者楽しめるスペースを作っている車椅子でも外の空気や景色を楽しめるようにスロープを利用している</p>		<p>畑スペースを確保しており、入居者さんにも花植えや、作物の収穫を手伝ってもらい、日常的に楽しみながら活動している。畑まで行けない方でも、屋内から活動風景を眺め楽しんでいただいている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

私たちは日々入居者の方々と触れ合う中で「生きる喜び」を感じさせていただいています。また、多くの事も学ばさせていただいていることに感謝しています。その中で「心」と「心」の繋がりがあって初めて信頼を得ることができ、そばに寄り添い、ゆっくりうなずき、お話を傾け、手を握り、一緒に笑うことが出来る喜びを感じています。

- ①入居者さんに自由な外出、散歩をしていただくため施錠をしない玄関。またそれを支えるためゆとりあるスタッフ配置をしている。
- ②入居者さんの生活ペースに合わせた日常生活を送っていただくためスタッフ都合での支援は行っていない。